

改訂経緯

- ◆ 「東京電力(株)福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」(平成25年6月27日改訂)は、中長期の取組の実現に向けた基本原則の下で、今後の現場状況や研究開発成果等を踏まえ、継続的に見直すこととしている。
- ◆ 平成26年2月から開催している本評議会ですべていただいた御意見を踏まえ、同年10月20日の本評議会にて、本年春頃までに改訂を行うことを示した。

福島評議会における中長期ロードマップに関する御指摘・御要望事項

- ◆ 第2期についての期間や工程を細分化、具体化すべき。スパンが長すぎて工程管理が出来ない。
- ◆ 「いつまでに何をやるか」というロードマップの基本的要素が欠けている。
- ◆ 中長期ロードマップの進捗状況が分かりにくい。
- ◆ 短期のロードマップを工夫して作成して欲しい。
- ◆ 作業の進展、各種調査により新たに判明したリスクも折り込み、住民目線で手の届く形での見直しを期待。
- ◆ 工程を進める上での必要な条件、リスクをあらかじめロードマップ上に記載しておくべき。

2. 中長期ロードマップ改訂の主な視点

【マイルストーン(目標工程)の明確化】

- ◆ 中長期ロードマップの進捗管理のための分かりやすいマイルストーン(目標工程)を明確化する。

【リスクについての考え方の明確化】

- ◆ リスクごとの特質を踏まえ、廃止措置等におけるリスク低減及び廃炉作業の優先順位の考え方等を明確化する。(原子力損害賠償・廃炉等支援機構「戦略プラン」、原子力規制委員会の検討状況の反映)

【「リスクの最小化」と「可能な限り速やかな廃炉」の両立】

- ◆ 上記のリスクの考えとこれまでの知見を踏まえ、リスクの最小化と可能な限り速やかな廃炉を両立させる最適な工程の確立に向けた道筋を提示する。

【作業員の被ばく線量の低減等】

- ◆ 法定被ばく線量限度(100mSv/5年、50mSv/年)を確実に遵守するのみならず、更に可能な限り被ばく線量の低減を図るとともに、作業の安全衛生水準の向上を図ることを明確化する。

【世界の叡智の結集】

- ◆ 福島第一原子力発電所の廃止措置等は、世界に前例の無い困難な事業であるため、国内外への公募や国内外の研究機関等による共同研究開発を通じ、燃料デブリ取り出し等について、世界の叡智を引き続き結集する。

【より幅広い関係者(ステークホルダー)への情報発信】

- ◆ 風評被害への対応のため、より幅広い関係者に対し、廃炉・汚染水対策に関する情報提供を充実させること等を通じ、風評被害対策にも対応する。